

たかが・・・されど・・・

長久手市立北中学校

二年 沼波 寧

「カメラがビニール袋を食べています。」
今、みなさんはこれを聞いて、何を思いましたか。何を感じましたか。

小学四年生のとき、先生は私にそう問いかけてました。

『カメラがクラゲと間違えてビニール袋を食べ
て死んでしまった。』
その事実をすんなりと飲み込むことなどどう
てい不可能なことでした。なぜそんなことが
起こってしまったのか。なぜそれだけのことで
カメラは死ななければいけないのか。頭の中は
疑問でうめつくされました。この疑問を解決
するため私は個人的に深ぼりすることにした
のです。

調べてみると、他にもたくさん生物たちが
プラスチックの被害にあっていたのです。
放置された漁師網が体にからまり死んでしま
ったアザラシ。ひな鳥にストローを与えてい

る名も知らない鳥。胃にプラスチックがたま
り死んでしまったザトウクジラ。

年間約百万もの生物がプラスチックごみ
の被害にあい、死亡しています。このことを
知った時、私はとてつもない罪悪感に襲われ
ました。この生物たちの死は全て人間による
もの。私たちが殺したのだと。

「命を大切に」

この言葉に海洋生物たちはふくまれていない
のだろうか。その答えはN。です。生き物の
命に大小などないからです。捨てて良い命な
ど一つもありません。それでも人々はなんの
関心もなく生物を殺しています。殺したこと
すら知らぬまま。

今、世界ではこのような海洋プラスチック
問題に少しずつ関心が向いてきています。私
たちの生活がどんどん便利になるいっぽうで
それを雑に扱うことで他の生物を苦しめる。
そんなことがなくなるよう、私たちには努力
し、達成する責任があります。その責任を果
たすため、私たちにできることはとても身近
にあります。買い物するとき、マイバックを使

用する。普段からマイボトル、マイ箸を持ち歩く。この『3マイ』を意識し、実行するだけでプラスチックごみを大幅に減らすことができます。そしてなにより、ポイ捨てをしないこと、ごみをきちんと分別することが大切です。

海洋プラスチック問題を知らない人はまだまだたくさんいます。一人でも多くの人を知ること、海洋生物の命を守ることにつながるのです。プラスチックさえなければ死ぬことのない生物たちの教えを無駄にすることは、あってはならないことです。

もしかすると、生き物の命を軽蔑している人がいるかもしれません。そんなことは今すぐにやめてください。確かに生き物たちとは話すことはできません。知能も劣っているでしょう。しかし、私たち人間はその生き物の命をいただくことで生きながらえているのです。生き物がいなければ私たちは生きられないのです。

たかが百万匹の死ととらえるか、百万匹もの死ととらえるか。そのとらえ方が私達

の進む道、地球の進む道を決めると私は考え
ます。その進む道を誤らないよう、海洋プラ
スチック問題を一人でも多くの人が知り、責
任を果たそうとすることが、

「地球を守り続ける」

ということの大きな一部だと思います。